

事務事業点検評価シート

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】					
施策目標	おおたま学園構想のより一層の推進					
主要施策	幼・小・中一貫的教育推進事業					
趣旨・概要	<p>○幼稚園教育要領、学習指導要領の理念を踏まえ、未来を担う子どもたち一人一人の資質・能力を育む教育活動の具現を図るため、幼稚園・小・中学校のつながりを重視したカリキュラムを作成し、実施改善を行う。</p> <p>○幼・小・中の園児・児童・生徒及び教職員の交流を積極的に推進し、日々成長し続ける子どもたちを真ん中において校種を越えた学び合いを大切にしてい。とりわけ、教職員の交流にかかわって、おおたま学園各種委員会の主体的な授業研究や研修を積極的に支援する。</p>					
達成規準	<p>○学年間、学校段階間のつながりや教科等を横断する視点を大切にしながら、教育課程の編成、実施、改善が行われている。</p> <p>○感染症対策を徹底しつつ、園児・児童・生徒相互及び教員相互の積極的な交流が行われている。</p> <p>○各委員会及びオープンスクールにおいて主体的で、課題意識をもった運営がなされている。</p> <p>○教員一人一人がおおたま学園及び各校園の諸課題の解決に努め、児童・生徒の主体的・対話的・探究的な深い学びが実現している。</p>					
評価	《評価する点》					
	<p>○今年度は各学校のオープンスクールによる授業研究会に加え、「QU研修会」「通常学級にいる特別に支援が必要な幼児・児童・生徒への支援についての研修会」「デジタル・シティズンシップ研修会」「外国語教育研修会」「着任教職員研修会」等、おおたま学園の課題解決に向けた研修が積極的に行われた。</p> <p>○午前中の実施のため参加者の少なかった保育研究会にも、今年度は小・中学校の教員が参加し、幼・小・中の一貫的教育の充実に向け研修を深めることができた。</p> <p>○次年度の教育課程編成に向け、架け橋プログラム教育課程編成担当者会(2回)や総合的な学習の時間におけるICT活用研修を行うなど、積極的改善に向けた研修が行われた。</p> <p>○4月に行われた各委員会の話し合いを基に作成された計画に基づき、保育事業家庭学習連携推進委員会では「学習の約束」の周知、連携活動推進委員会では「千羽鶴作成」、特別支援活動委員会では「小中交流会」等、各委員会の活動が主体的に進められた。また、夏休みに行われた、おおたま学園各委員会では、各校園の実施状況が共有され課題解決に向け話し合いが行われた。</p>					
	《改善点(改善策)》					
	<p>●学習指導要領の目指す園児・児童・生徒の育成に向け、地域と一緒に子どもの育ちを支える大玉村の教育のよさをさらに生かすとともに、幼・小・中の円滑な接続を図る交流活動・研修等の充実を図る。</p>					
達成状況	A: 十分達成	年度末の展開度	A: 大きく展開	方向性	拡充・発展	

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】					
施策目標	おおたま学園構想のより一層の推進					
主要施策	幼稚園教育の充実					
趣旨・概要	<p>○3年保育実施の7年目にあたり、非認知能力を育み、幼稚園と小学校をつなぐ実行性のあるカリキュラムの編成・実施・改善に努め、幼児教育の充実を図る。</p> <p>○保護者意識調査を実施し、幼稚園と家庭や地域等が連携・協力して一人一人の育ちを大切にされた教育を行う。</p>					
達成規準	<p>○「大玉村 幼稚園教育指導の重点」を基に教育課程を編成し、実践、評価、改善を図り、教育活動の質の向上が図られている。</p> <p>○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「幼保小架け橋プログラム」を踏まえ、目指す姿を明らかにして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて指導が行われている。</p> <p>○幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続を図るよう努めている。</p> <p>○保護者意識調査等により幼児の成長を見取り、一人一人を大切にされた指導・援助に努め、自立の基礎や自主性等の非認知能力が育っている。</p>					
評価	《評価する点》					
	<p>○「幼小交流打合せ会」の話し合いを受け、年間を通して積極的に交流活動が行われた。小学校と幼稚園の教師が自主的に連絡を取り合い、継続交流を行うことにより子供たちの温かな心の交流もみることができた。</p> <p>○今年度は、次年度の研究公開に向け、宮城教育大学附属幼稚園視察や園内研修も行われた。宮城教育大学視察には、副園長に参加してもらった。多くの刺激を受け自園の環境を見つめ直し、新たな取り組みに向け意欲を高める姿が見られた。また、園内研修も自主的に行われ「言葉」「主体性」の育成に向け研修を深めることができた。これらの取組は保護者意識調査の結果にも表れており、家庭と連携を図った保育の充実にもつながってきていることが窺える。</p> <p>○幼小接続の第3期に向け、国語科を中心とした架け橋プログラム作成を行った。互いの活動を振り返る機会ともなり、接続の在り方を見つめる機会となった。</p> <p>○保護者意識調査は、3.7以上の項目が3項目増えるなど、引き続き高い結果となった。今後も保護者との信頼関係を大切に一人一人を大切にされた援助を行って行きたい。</p>					
	《改善点(改善策)》					
	<p>●非認知能力の育成に向け、主体的な遊びや活動を通して、考えたり分かたりすることの楽しさや喜びを十分体験する園環境の充実を図る。</p> <p>●「保護者意識調査」を活用し、一人ひとりの育ちを大切にされた援助を工夫するとともに、さらに保護者と共に育む教育の充実を図る。</p>					
達成状況	A: 十分達成	年度末の展開度	A: 大きく展開	方向性	拡充・発展	

事務事業点検評価シート

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】					
施策目標	個を伸ばし、確かな学力を育む教育活動の充実					
主要施策	学力向上推進事業					
趣旨・概要	<p>○おおたま学園の組織を活かし、幼・小・中の連携を軸にした学びの連続性を意識した学習指導の改善するための指導や研修の充実を図る。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた個別最適な学び、協働的な学び、探求的な学びの学習指導を改善していくために必要な力や教育課程を横断的に捉えたカリキュラムマネジメントに必要な力等を育む研修の充実を図る。</p> <p>○小学校に配置の外国語教育推進リーダーやイノベーション人材育成推進教員、地域人材を含めた外部講師等を積極的に活用し、子ども達</p>					
達成規準	<p>○オープンスクールを中心に授業参観・研究協議・専門的な指導助言を通して、主体的・対話的で深い学びの具現化に向けた個別最適な学び、協働的な学びが一体的に行われたり、探求的な学びが実施されたりしている。</p> <p>○子どもたちが課題解決に向けて、見通しをもち、主体的に自力解決に取り組むとともに、他の考えを興味をもって聞いたり、自分の考えを根拠をもって相手に伝えたりすることを通して、学習指導要領に示されている資質や能力が身につけている。</p> <p>○ふくしまの「授業スタンダード」を活用するとともに、学校教育指導の重点である「ねらいを明確にした単元構想・授業構想」「発問の工夫」「必然性のある話し合い活動」「教師のコーディネート」「まとめや振り返りの充実」の5項目を意識した取組が推進されている。</p> <p>○ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査の結果をもとに、児童・生徒の実態をふまえながら、各校が授業改善の視点を明確にもち、必要な資質や能力を身につける具体的な取組が推進されている。</p>					
評価	《評価する点》					
	<p>○オープンスクールや授業研究会等において、「ねらいを明確にした単元構想・授業構想」「発問の工夫」「必然性のある話し合い活動」「教師のコーディネート」「まとめと振り返りの工夫」を意識した授業が展開できるように連携を図りながら実践できた。特に、ペア学習やグループ学習などの学び合いによる指導の工夫がみられ、誰1人とり残さない指導が実践されている。また、指導受けたことを村校長会、教頭・副園長連絡会等で共有化を図り、授業改善の視点を明確に示すことができた。</p> <p>○全国・学力学習調査やふくしま学力調査の結果を細かく分析し、本村の学力について不足しているものをしっかりと提示した。情意面や認知面での実態をもとに、今後の指導の方向性や共通に認識しておくものについて、村校長会、教頭・副園長連絡会、授業研究会等で共有できた。また、CS委員会にも概要版を提示し、学校評価に生かしたり、次年度の教育課程編成のための資料として活用することができた。</p> <p>○各校、学力向上グランドデザインを作成し、RPDCAサイクルを取り入れながら日々授業研究、検証、改善に取り組んでいた。また、おおたま学園の保育授業・学習習慣連携推進委員会を中心に、家庭学習からの学力向上へのアプローチをしたり、読書活動推進委員会を中心に読書における読解力の向上に努めたりするなど各委員会がそれぞれに学力向上の基盤である学級生活や家庭生活から改善していこうとする様子が見られた。</p>					
	《改善点(改善策)》					
	<p>●全国学力学習状況調査やふくしま学力調査から授業で取り組んだことが結果となって反映されてない状況がある。主体的な学習になるために、教師の発語を少なくし、子どもたち自身が対話を通して学び合う授業づくりに努めていく必要がある。また、基礎学力の定着に課題があり、授業において学習内容を確認し、定着を図る時間が必要である。その定着の時間をAIドリルなどを活用し、その子にあった学力で進められるように授業改善を求めていく。</p>					
達成状況	B:概ね達成	年度末の展開度	B:概ね展開	方向性	継続	

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】					
施策目標	個を伸ばし、確かな学力を育む教育活動の充実					
主要施策	ICT推進事業					
趣旨・概要	<p>○GIGAスクール構想に則り、子ども達の「主体的・対話的で深い学び」の実現と「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に関わるように、一人一台タブレット環境を日常的に活用することで効果的な学習活動の推進を図り、情報活用能力の育成に努める。さらに、デジタル機器の善き使い手を育成するために、デジタル・シティズンシップ教育(※)を推進する。</p> <p>○教職員の児童生徒と向き合う時間の確保と、児童生徒情報の共有化によるきめ細かな指導の充実、さらに教職員の多忙化解消を図るため、統合型校務支援システムの積極的な活用を図り、その改善点を提案していく。</p>					
達成規準	<p>○1人1台端末を活用することで、児童生徒には主体的・対話的で深い学びを実現し、情報活用能力とデジタル・シティズンシップの育成を促している。また、ICTに関する支援と研修を行うことで、教職員は授業や校務でICTを有効活用している。</p> <p>○統合型校務支援システムを運用することにより、児童生徒への指導の充実と教職員の多忙化解消に寄与している。</p>					
評価	《評価する点》					
	<p>○DC教育授業を小・中学校の全てのクラスで実践することができたことと、DC教育の講演会をCS全体会で開催できたことは大きな前進である。</p> <p>○幼稚園の先生方にiPad研修会を開催できたことは、幼児からDC教育の考え方を体験させていくためにも大きな意味がある。</p> <p>○小学生には、中学年を中心に授業を行い、キーボードの活用を通して、タッチタイピングへの取組を進めることができた。中学生には、プログラミング言語(Swift)についてPlaygroundsを使って実習をすることができた。創造的なツールとしてPCを使う面白さを学ばせる良い契機となった。</p>					
	《改善点(改善策)》					
	<p>●DC教育については、先生方一人一人が自ら取り組んでいただけるように配慮したい。</p> <p>●DC教育をさらに推進するために、学校間の担当者会議の開催と情報共有の仕方については、次年度の課題としたい。</p> <p>●NextGiga端末への移行を考えて、次年度の研修は、Google for Educationのクラウドアプリを中心に据えていく必要がある。</p> <p>●校務支援システムの改善要望については、県への窓口がないため進展はなかった。</p>					
達成状況	A:十分達成	年度末の展開度	A:大きく展開	方向性	拡充・発展	

事務事業点検評価シート

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	安心して学べる教育環境づくり				
主要施策	就学支援事業・学校給食費補助事業				
趣旨・概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済的な理由等により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校生活に必要な費用(給食費、学用品費等)の一部を支給することにより、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう援助する。 ○ 関係機関と連携を図り、援助が必要であっても申請がなされない保護者を把握し、適切に支援する。 ○ 児童生徒の保護者の経済的負担を軽減することで安心して子育てができるよう補助を行う。 				
達成規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続して支援の必要な保護者、真に支援を必要とする保護者のいずれに対しても適切に支援が行われている。 ○ 保護者に対し給食費の補助を行うことにより、経済的負担の軽減が図られている。 ○ 準要保護就学援助の認定方法を見直し、保護者の負担軽減を図り、認定事務や審議がよりスムーズに行うことができる。 				
評 価	《評価する点》				
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準要保護就学援助事業の周知について、学校事務担当者と方法や時期の再確認を行うことにより、より適切に情報提供ができた。 ○ 準要保護認定について、民生児童委員の意見書についての要綱改正及び教育委員会で審議方法変更の了解を得ることにより、保護者の負担が軽減され、認定や審議をスムーズに行うことができるようになった。 				
評 価	《改善点(改善策)》				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 準要保護認定について、今回の要綱改正や変更に伴い様式などの変更が必要なため、教育委員及び民生児童委員への情報提供を適切に行えるよう考えていく。 				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	A: 大きく展開	方向性	継続

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	安心して学べる教育環境づくり				
主要施策	スクールバス運行管理事業				
趣旨・概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼小中の利用者が安全安心に利用できるようスクールバス車両の適切な管理を行う。 ○ 運行ルール、バス停など適切な管理運営に努める。 ○ 3歳児のスクールバス利用実現のために環境整備を進める。 				
達成規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種点検が定期的に行われ、安全安心な車両環境が維持されている。 ○ 誰もが安全安心にスクールバスを利用できるよう適切な運用がされている。 ○ 3歳児がスクールバスを利用できる体制が構築されている。 				
評 価	《評価する点》				
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車検や3ヶ月点検をはじめとした各種点検を通じて、迅速に修理するなど車両の適正な維持管理をすることができた。 ○ 3歳児のスクールバス利用に関して幼稚園、運転手等と綿密に連携し、円滑に事務を進めることができた。 				
評 価	《改善点(改善策)》				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化した車両の更新を検討する。 ● イベント時の臨時運行の申請について連絡調整が不十分で、バスの手配がされないことがあった。連絡系統を関係者で再確認して円滑な運行に努める。 				
達成状況	A: 十分達成	年度末の展 開度	A: 大きく展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】					
施策目標	「地域と共に歩む学校づくり」の推進					
主要施策	コミュニティ・スクール推進事業					
趣旨・概要	<p>○おおたま学園を中心とした幼小中の連携(縦のつながり)を強化するとともに、家庭・地域・学校が一体となった「地域と共に歩む学校」(学校を核とした地域づくり)(横のつながり)を一層強化し、子どもたちの確かで豊かな学びを支える環境づくりを行う。</p> <p>○コミュニティ・スクールに関する啓発活動や組織体制、活動内容の充実に取り組み、子ども達を真ん中にした教育活動ができるよう運営を行う。また、世代を超えた交わりをより一層推進し、共に学び合う環境を作る。</p>					
達成規準	<p>○コミュニティ・スクール委員自らが主体的に委員会を運営し、互いの英知を結集し、子どもたちの豊かな学びを支えるとともに、子ども達と関わり合いながら地域に貢献している姿を示している。</p> <p>○コミュニティ・スクール委員会やオープンスクールへの参加を通して、各校園の基本方針及び子どもたちの学びの姿や教育課題を共有し、その解決に向けて具体的な取組を行っている。</p> <p>○コミュニティ・スクールに関する啓発活動を積極的に行い、おおたまふれあいフェスタ及びおおたまコミュニティ広場などに保護者、地域住民が参画し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動が推進されている。</p>					
評価	《評価する点》					
	<p>○今年度は、1名のCS委員が替わり、昨年度と同様に9回のCS委員会を予定通り実施することができた。熟議においては、各園学校の課題等の解決に向けて様々な意見が交換され、学校、家庭、地域が一体となって教育活動に取り組むための話し合いを行うことができた。また、小中学生がボランティア活動に取り組むなど地域に貢献する活動が見られるようになり、子どもたち、地域の方々の相乗効果が見られた。</p> <p>○今年度も3回のオープンスクールが行われ、各園学校に特化した熟議が行われた。今年も中学生がCS委員会に参加し、中学生ならではの柔軟な発想で意見を交わすことができた。さらに、CS委員がこのオープンスクールに参加することによって学校を知る良い機会となり、学校評価委員としての役割も果たした。</p> <p>○今年度はおおたま・オータム・フェスタの名称をおおたまふれあいフェスタに変え、平日の分開催を実施することができた。子どもたちは豊かな体験活動を行った。異学年交流は上級生が下級生の面倒を見るなど交流を通して下級生が上級生に対して感謝の気持ちを持ったり、上級生は褒められることで自信を持ち、自己肯定感が高まったりするなど人間関係の醸成や地域への愛着が増した。大玉村の良さを知る機会にもなり、全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査において、地域のことを考える児童生徒の割合が高い数値を示す要因の一つでもある。</p>					
	《改善点(改善策)》					
達成状況	A: 十分達成	年度末の展開度	A: 大きく展開	方向性	継続	

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】					
施策目標	「地域と共に歩む学校づくり」の推進					
主要施策	地域学校協働活動事業(家庭教育支援事業)					
趣旨・概要	<p>○核家族化や共稼ぎ家庭など、地域とのつながりが少なくなっている現在、子育ての悩みや不安を抱えた家族が増加し、地域から孤立、自ら相談する場へのアクセスが困難な家庭などを支援するため、地域全体では家庭教育支援の基盤の仕組みづくりが求められている。</p>					
達成規準	<p>○地域住民と共に、保護者同士が話し合え、くつろげる居場所づくりの提供ができています。</p> <p>○おおたまコミュニティフェスタ事業を活用し、親子が一緒に行える行事が実施できています。</p> <p>○QRコードで寄せられた相談について、必要に応じて関係機関への助言を求めながら、保護者の不安解消や課題解決ができています。</p>					
評価	《評価する点》					
	<p>○学校の授業参観・個別懇談の空き時間を利用して行っている「お休みスペース」も年々参加者の増加傾向(1月末現在: 延べ95名)が見受けられ、コロナ禍後の中での保護者間のコミュニケーション不足解消にもつながることができた。</p> <p>○今年度は、新たに健康福祉課(子育てサポートセンター事業)と共催しながらの「親子ふれあい遊び」を開催し、親子一緒に動物園の動物になりきって、親子のふれあいの時間を提供できた。企画から当日の運営までコーディネーターを中心にチーム員が考え準備する等、チーム員同士のつながりも強化され、次年度も引き続き継続していききたい事業でもある。</p> <p>○QRコードによる相談件数も多いものではないが、ひとつひとつの案件を関係機関(教育総務課や健康福祉課、村保育所など)と連携をとりながら、少しずつ解決できるような体制づくりが徐々に構築されている。</p>					
	《改善点(改善策)》					
達成状況	A: 十分達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続	

事務事業点検評価シート

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】					
施策目標	読書活動の推進					
主要施策	読書活動の推進事業					
趣旨・概要	○読書に親しむ機会の充実を図るとともに、おはなし会の開催や図書ボランティア・読み聞かせのボランティアの育成など、第2次大玉村読書活動推進計画に基づく活動を推進し、本に親しむ機会の充実と読書習慣の定着を図る。					
達成規準	○第2次大玉村子ども読書活動推進計画の基本方針を基盤として、読書活動の推進と環境の充実を図っている。 ○「おはなし会」「年中再現行事」の事業を活用し、児童・生徒・幼児が多くの本や絵本に触れて、親しんでいる。 ○学校司書と連携を図り、子ども司書の育成と活躍の場を確保し活動している。					
評価	《評価する点》					
	○ブックスタートで絵本に触れる機会があることで、絵本を通して乳児と保護者のかけがえのない時間を持つことができるきっかけ作りができた。同時に、ふるさとホールの利用方法、おはなし会の周知を行うことができた。 ○今年度も、学校司書と連携して子ども司書養成講座を実施した。昨年度反省でもあった、継続した活動の実施のため、おはなし会に挑戦するというテーマをもって取り組む事ができた。子ども司書養成講座を受講した後に、おはなし会に参加し活躍できたことが大きな自信になった。 ○おはなし会の参加者を増やすために、ポイントカードや缶バッジの作成や配付など、また、「また、おはなし会に来たい」と思えるような環境作りを常に意識し実践することができた。また、おはなしボランティアゆめこじの方たちと連携を図り、わくわくするようなおはなし会の開催にするために、事前事後の話し合いを密にしたり、アイデアを出し合いながら活動することができた。					
評価	《改善点(改善策)》					
	●おおたまっ子学び舎塾の一貫で「子ども司書養成講座」を2年継続して実施した。アンケート結果を基に、子ども司書という枠だけにとらわれず、読書活動推進の為に別の角度からの講座の開設にも挑戦していきたい。 ●おはなしボランティア研修会で、絵本の読み聞かせに加えて、おはなし会で実践できる手遊びの講習を受けてみたいという意見があがっている。次年度は、それらの意見を広く吸い上げ研修会の開催ができるようにしていきたい。また、他市町村のイベントの参加も視野に入れていきたい。					
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続	

基本施策	子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり【強育】					
施策目標	スポーツ活動の推進					
主要施策	社会体育関連団体支援事業					
趣旨・概要	○各種社会体育団体の活動支援を通じて、スポーツ団体の活性化を図る。また、健康ポイント該当事業へのポイントを交付し、健康の推進を図る。 ◇スポーツ協会運営支援 ◇あだたら健康マラソン大会実行委員会運営支援 ◇スポーツフェスティバル実施					
達成規準	○スポーツ協会の主管事業である「あだたら健康マラソン大会」の円滑な運営と進行を行い、交通事故等がなく開催ができていいる。 ○3年に一度のスポーツフェスティバル(仮称)の円滑な運営とスムーズな進行及び安全な開催ができていいる。 ○様々な年代の方々が参加し、村民が体力づくり・健康づくりをする場となっている。					
評価	《評価する点》					
	○コロナ前の状況で各種大会等を開催することができた。 ○あだたら健康マラソンについて、今までの11月開催から6月の開催となり、気温の問題により各地の大会が減少する時期の開催となり、参加者からは開催を肯定する声があった。					
評価	《改善点(改善策)》					
	●新型コロナ感染症により、数年間各種大会やスポーツ活動等が中止、縮小になっていたことで、住民のスポーツ離れが著しく、その人たちのスポーツ活動への参画を推進していくため、スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツクラブと協力しあい、スポーツ人口が増加する事業展開をする。 ●初めての6月開催になったあだたら健康マラソンでは、日陰用テントを4張準備をしたものの数が足りなく、選手招集場所等で選手が待っている間の日陰がない状態になってしまった。今後、実行委員会にて実施の可否を決定するが、開催する運びとなった場合には、暑さ対策について万全の準備をして大会運営にあたる。					
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続	

事務事業点検評価シート

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】 子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり【強育】				
施策目標	「地域と共に歩む学校づくり」の推進 スポーツ活動の促進				
主要施策	地域学校協働活動 社会体育関係団体支援事業				
趣旨・概要	○将来的な部活動の地域移行に伴う支援体制づくりの推進を図る。(運動部・文化部)				
達成規準	○部活動の地域移行における意見交換会やセミナー等を通して情報収集を行いながら、本村における支援体制づくりを推進するとともに、中学校や生徒・保護者、関係団体をはじめとした関係各所への情報発信と認識の共有ができています。				
評価	《評価する点》 ○会議や意見交換会に積極的に参加し、情報収集を図り、他の自治体の状況などを担当者と話し合うことができた。 ○村内関係団体へのアンケートを実施し現場レベルで感じている課題を知ることができ、中学校長との共有、協議を通して、共通認識を図ることができた。				
	《改善点(改善策)》 ●予算関係まで踏み込むことができなかった。重点地域として指定を受け、実証事業として補助金をいただくこともできるが、村としてこの事業に取り組む上での核が定まっていない。 ●村として、これまで国等から得ている情報を生徒や保護者、教員、関係者全体へどのように周知すべきかを協議・検討する必要がある。 ●現在、村内で少しずつ動き出しをしている団体のサポートを行い、モデルケースとして他の団体へ示すことができるようにする。 ●休日だけではなく、平日においても活動を見てくれるような指導者の確保が必要となる。(長期的な視点が必要)				
達成状況	C: やや不十分	年度末の展開度	C: 一部だけに展開	方向性	継続

基本施策	ふるさと文化の振興【郷育】				
施策目標	歴史文化の保存と継承・活用				
主要施策	文化財保護事業				
趣旨・概要	○大玉村歴史文化基本構想において、本村に存在する貴重な歴史文化、伝統文化等の指定・未指定の文化財を「おおたま遺産」として捉えており、そのうち未指定の「おおたま遺産」の発掘・調査・指定を推進する。				
達成規準	○後世へ「おおたま遺産」の保存・継承を推進し、住民の郷土意識を醸成することができている。 ○ふるさとホール収蔵資料の整理が進んでいる。 ○貴重な「おおたま遺産」の滅失や散逸を防ぐことできている。				
評価	《評価する点》 ○小名倉山の「石造大日如来坐像」及び「石造龍樹菩薩坐像」を指定し周知することで、住民の郷土意識を醸成することができた。 ○「おおたま遺産」の一つである天王下八坂神社の震災記念碑の調査し、碑文と事実との整合性を図ることができた。				
	《改善点(改善策)》 ●指定文化財及びおおたま遺産について、QRコード等を活用した情報提供を図っていきたい。 ●おおたま遺産の情報入手と発見・調査を文化財調査委員と進めていきたい。 ●有識者等適切な人材とコンタクトができる人脈の拡大を図りたい。 ●馬場ザクラ枯死を教訓に、後継樹の育成状況・環境の注視、さらに樹木医等との連携を図ってきたい。				
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	拡充・発展

事務事業点検評価シート

基本施策	ふるさと文化の振興【郷育】					
施策目標	歴史文化の保存と継承・活用					
主要施策	あだたらふるさとホール運営事業					
趣旨・概要	<p>○郷土の歴史及び民俗等に関する資料を収集、保管、展示し、村民の教養の向上と文化の振興を図るため、村の歴史や文化に係る企画展や、時節や社会に添ったテーマで特別展を開催する。</p> <p>○あだたらふるさとホールの機能の維持・向上を図るとともに、野内与吉氏の功績展示を行う。</p>					
達成規準	<p>○ふるさとホール収蔵資料の把握・整理が進んでいる。</p> <p>○「マチュピチュ村を創った野内与吉」コーナーにより、さらに村内外に与吉の功績を、広めることができている。</p>					
評 価	《評価する点》					
	<p>○年中行事再現・おはなし会では、おはなしボランティアゆめこじメンバーの協力のもと読みきかせや工作の方法を工夫できた。スタンプカードを始めたことが、参加者数の増加につながりつつある。</p> <p>○収蔵庫1階資料の確認・登録を完了し、適切な配置につなげることができた。</p> <p>○図書管理(購入、廃棄、頒布、貸出、登録利用者整理)方法の見直しが定着し、滞りなく進められた。</p>					
	《改善点(改善策)》					
<ul style="list-style-type: none"> ●年中行事再現・おはなし会に楽しく参加できるための工夫を継続し、参加者を増やす。 ●民俗資料を分類別に適切に配置し直して収蔵し、活用しやすくするとともに、効果的な展示につなげていく。 ●学校との連携をさらに密にして、ふるさとホールの学習での効果的活用を促す。 						
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続	